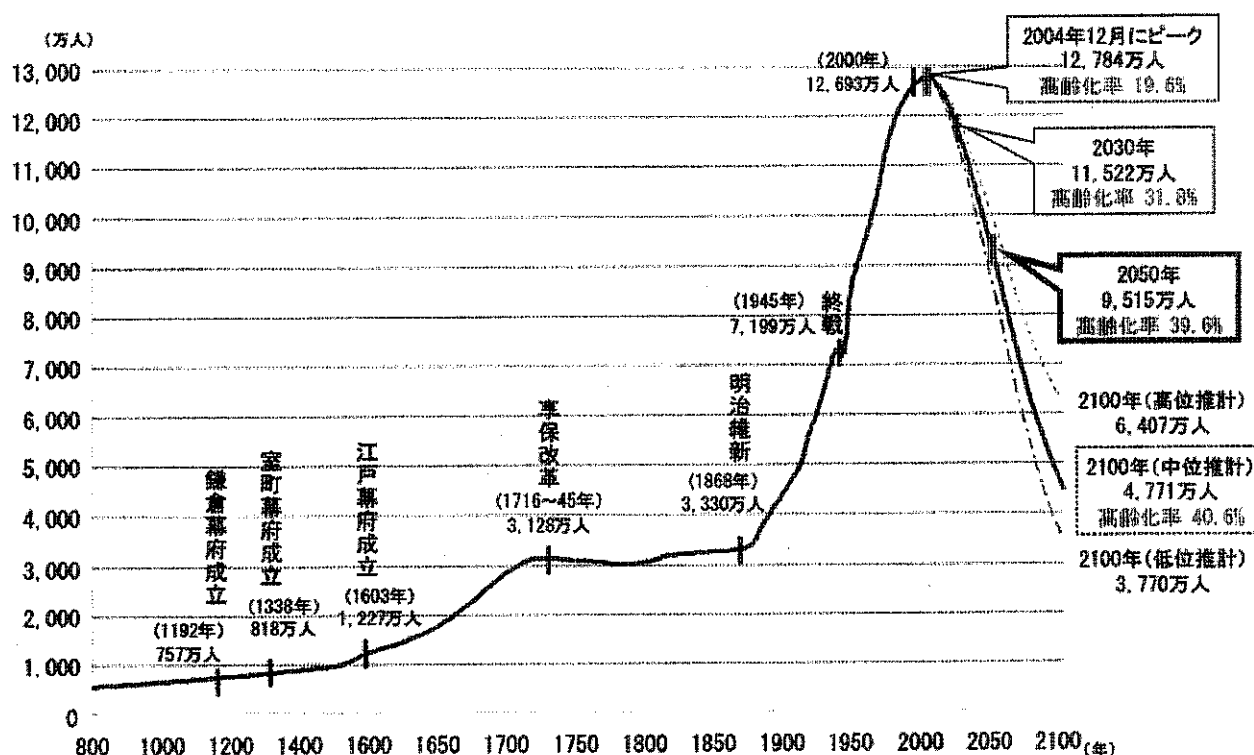


日本の人口は長期的に激減！

【図 I-1】我が国の人口は長期的には急減する局面に

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)をもとに、国土交通省国土計画課作成

出典:国土交通省 国土審議会政策部会長期展望委員会 「国土の長期展望」中間とりまとめ 平成23年2月21日 資料

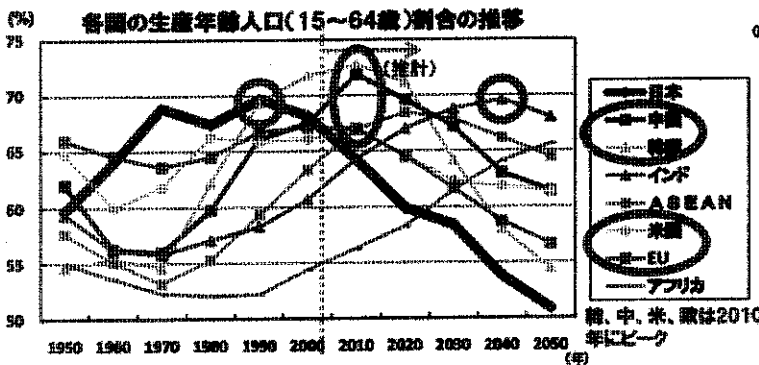
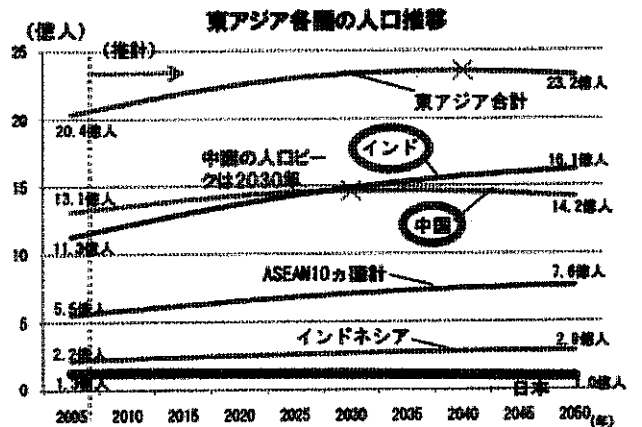
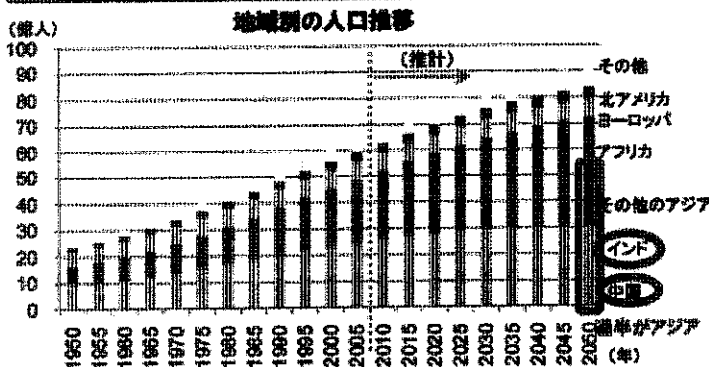
☆終戦時7千万人だった人口は2004年1億2千8百万人をピークに人口減少時代に突入しました。

☆国の予測では、2050年には1億人以下、2100年には5千万人以下になると予想されています。

ASEAN、インド、アフリカが急増！

【図 I-7】 2030年に中国の人口がピークを迎え、インドが中国を抜く

- 世界全体の人口は2050年まで一貫して増加傾向にある。(2005年:約70億人→2050年:約90億人)
- 人口シェアではアジアが過半を占めるが、さらにその過半は中国とインド。2050年に向けてアジアの人口シェアはほぼ変わらない。東アジア全体では、2040年まで人口は約3億人増加するが、その後は減少に転じる。中国の人口は2030年頃をピークに減少すると見込まれる。これに対し、インドは一貫して人口が増加し、2030年には中国を抜くと見込まれる。
- 生産年齢人口の割合では、日本は1990年をピークにすでに減少しているのに対し、韓国、中国、米国、EUでは、2010年を境に生産年齢人口の割合が増加する。インドは、2040年まで生産年齢人口の割合が増加。



(出典)「各国の人口」はWorld Population Prospects: The 2008 Revision(国連適合)、「日本の人口」は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」における出生中位(死亡中位)推計をもとに、国土交通省国土計画局作成
 (注)「東アジア合計」は、日本、中国、韓国、ASEAN10カ国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)の合計値

出典: 国土交通省 国土審議会政策部会長期展望委員会 「国土の長期展望」中間とりまとめ 平成23年2月21日 資料

☆地球規模で見た時に、人口は増え続けるが、韓国、中国、アメリカ、EUは2010年にピークを迎え、ASEAN、インド、アフリカが今後大きなマーケットに！

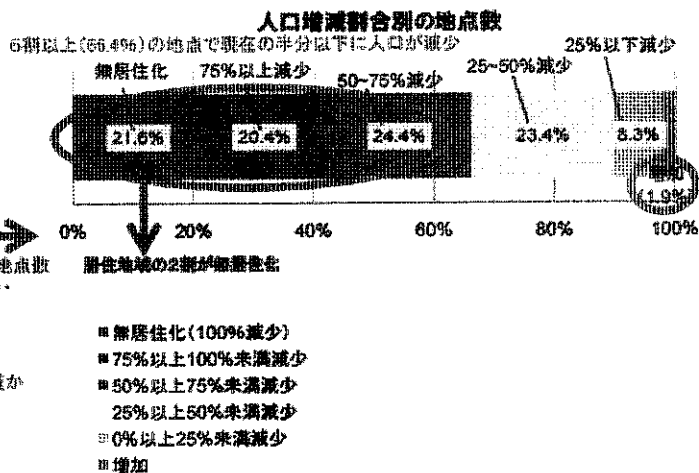
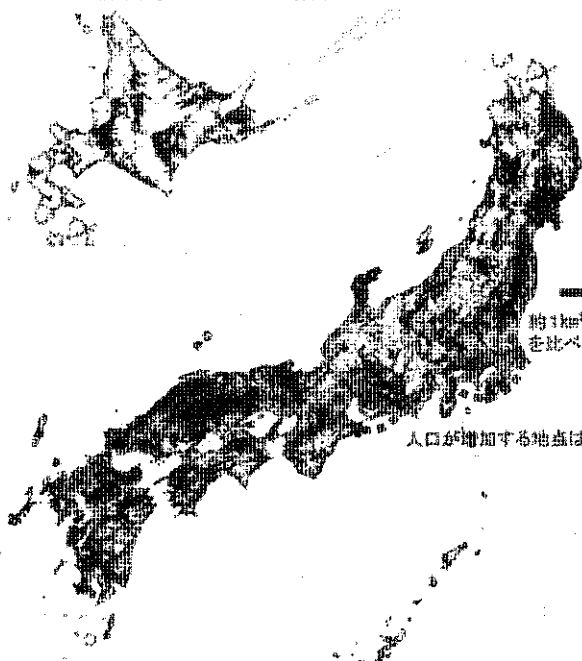
☆大企業のみならず、中小企業も海外進出を目論む動きが活発化！

日本でビジネスを展開するには 人口半減対策が必要不可欠に！

【図Ⅱ-1】国土の大部分で人口が疎になる一方、東京圏等に集中が起こる

- 全国を「約1km²毎の地点」で見ると、全国的な人口減少率(約25.5%)を上回って人口が減少する(人口が疎になる)地点が多数となっている。特に人口が半分以下になる地点が現在の居住地の6割以上を占める。
- 人口が増加する地点の割合は2%以下であり、東京圏と名古屋圏に多い。

2005年を100とした場合の2050年の人口増減状況



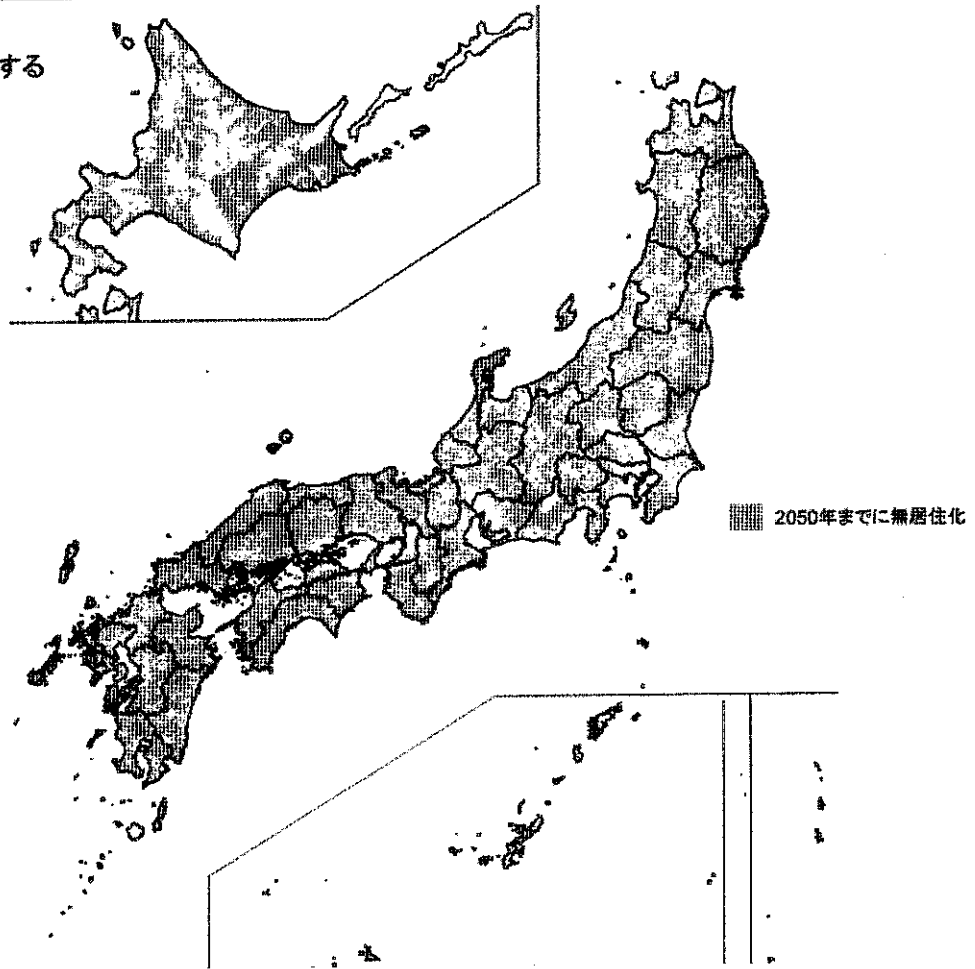
(出典)総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値(メッシュ別将来人口)をもとに、岡島作成

出典:国土交通省 国土審議会政策部会長期展望委員会 「国土の長期展望」中間とりまとめ 平成23年2月21日 資料

☆ 2050年には、60%以上の地点で人口が50%以上減小する！

日本でビジネスを展開するには 人口半減対策が必要不可欠に！

2050年までに無居住化する
地点



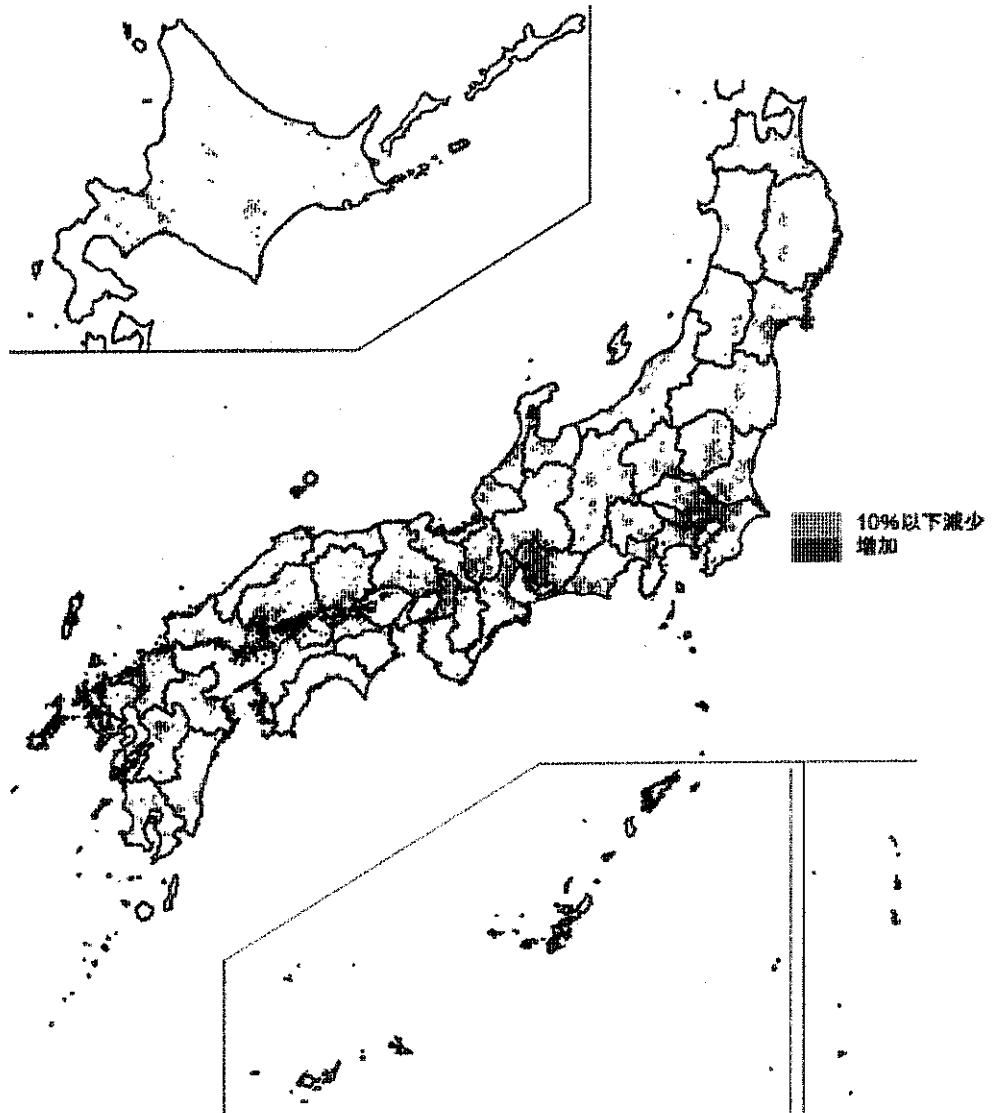
出典：国土交通省 国土政策局 新たな「国土のグランドデザイン」骨子参考資料 別紙3 平成26年3月28日

☆日本の多くの地点で高齢化・過疎化が進み、無居住化が進む！

日本でビジネスを展開するには 人口半減対策が必要不可欠に！

2050年の人口増減状況
(2010年=100)

【10%減少・増加】



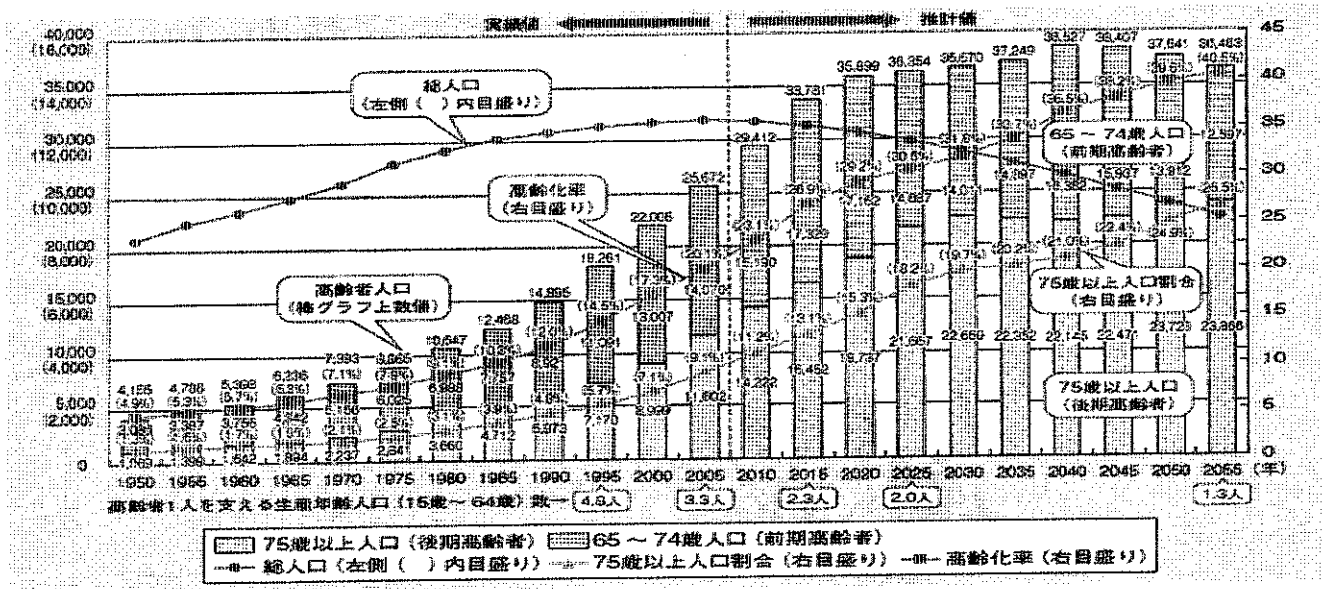
出典:国土交通省 国土政策局 新たな「国土のグランドデザイン」骨子参考資料 別紙3 平成26年3月28日

☆本業で死守すべきエリアは2050年でも人口が90%維持できる地点。

☆多くの地点は県庁所在地であり、現在人口が増加している地点。

人口は半減するも 高齢者人口は増加！

《高齢化の推移と将来推計》 (平成23年版 高齢社会白書より)



☆高齢者人口は2040年まで増加し続ける！

☆高齢化（65歳以上）比率は2030年31.8%、2050年高齢化率は39.6%へ

地方都市でも、多くの地点で 高齢者は2倍以上増加する！

2050年の75歳以上人口の増減状況(100%以上増加区分) (2010年との比較)

○人口増減率(2010-2050年)別の地点数割合(1km²毎の地点)

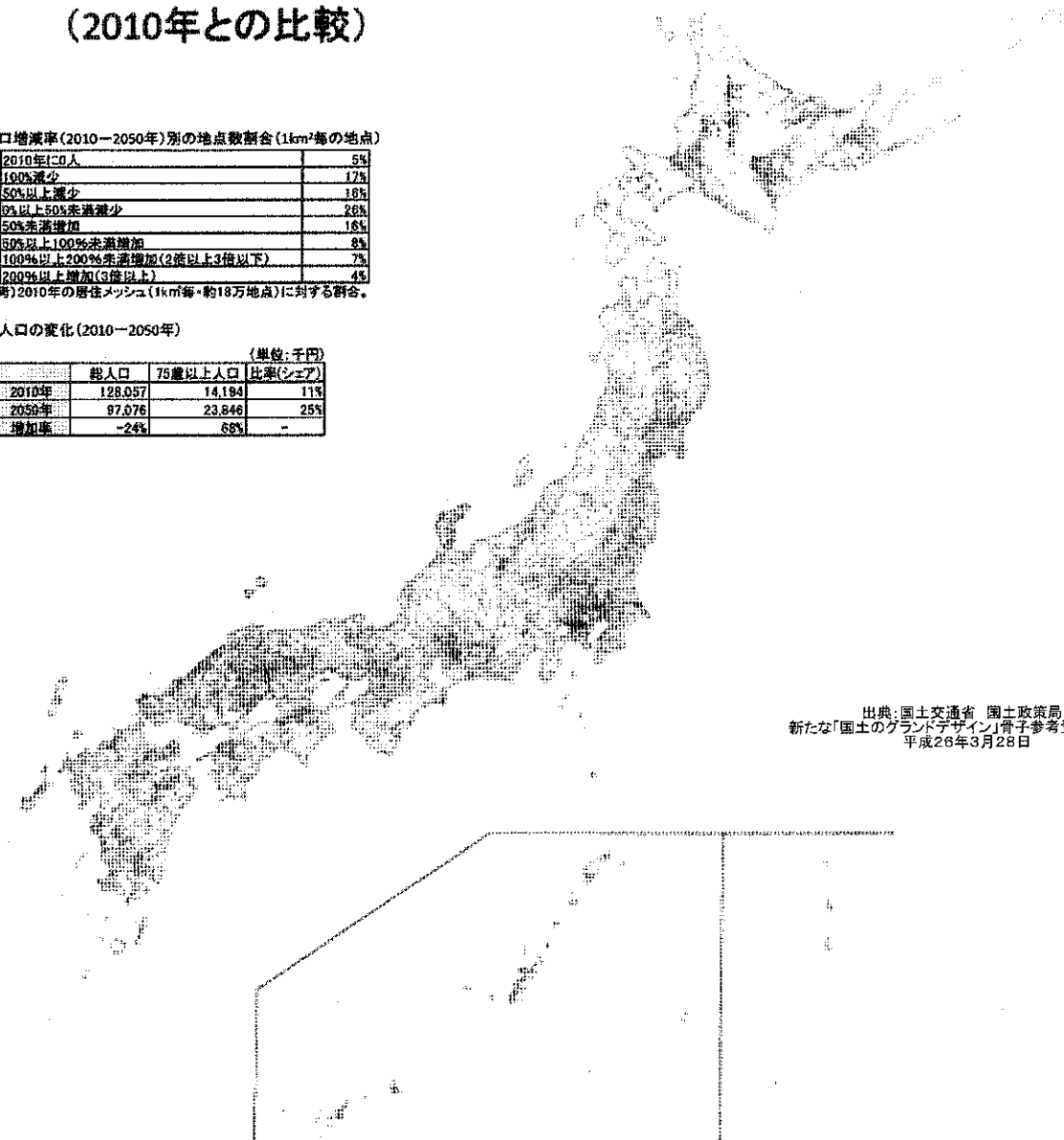
2010年に0人	5%
100%減少	17%
50%以上減少	18%
0%以上50%未満減少	28%
50%未満増加	18%
50%以上100%未満増加	8%
100%以上200%未満増加(2倍以上3倍以下)	7%
200%以上増加(3倍以上)	4%

(備考)2010年の居住メッシュ(1km²毎・約18万地点)に対する割合。

○人口の変化(2010-2050年)

	総人口	75歳以上人口	比率(シェア)
2010年	128,057	14,194	11%
2050年	97,076	23,846	25%
増加率	-24%	68%	-

(単位:千円)



出典:国土交通省 国土政策局
新たな「国土のグランドデザイン」骨子参考資料 別紙3
平成26年3月28日

☆地域別に見ても多くの地点で高齢者は増加し続ける！